

令和7年度 データ活用研究部会の役割

教育データ利活用についての研究（県域アカウントを用いたデータ利活用・MEXCBTに関する調査）

※ MEXCBT（メクビット）：文部科学省のCBTシステム

年度当初の課題 等

県域のアカウントを用いたデータ利活用

- 各校が使用する様々なツールのデータが混在しており、統合や連携が難しい。
- 県域のアカウントで利用できるツールを、活用している教職員・児童生徒が少ない。

MEXCBTに関する調査

- 全国学力・学習状況調査（全国学調）は、令和9年度、MEXCBTに全面移行の予定である。
- 地方学力・学習状況調査（地方学調）においても、文科省はMEXCBTの活用を促進している。

方策

- 
- 将来的な教育データ利活用のために、データ形式の標準化の必要性を発信していく。
 - 県域のアカウント及びツールの積極的活用と教育データのクラウドへの蓄積を促していく。
 - MEXCBTでの全国学力・学習状況調査や他県の地方学力学習状況調査について、動向や運用状況等を調査・研究する。

活動の進捗状況・今後の予定

：これまでの活動内容 ：これからの活動予定

県域のアカウントを用いたデータ利活用

- 「県域のアカウントを活用するメリット」や「標準化を図る必要性」等を部会通信で発信
- 学校訪問担当者と連携した直接的な活用推進（全体会などで先生方へ説明・訪問の際、実際に活用等）
- キャリアパスポートのデジタル化に向けた検討 ※「別紙スライド」を参照
- キャリアパスポートのデジタル化を推進（関係課と連携し、デジタル化を推進していく旨を周知）

MEXCBTに関する調査

- 「地方自治体の学力調査等のCBT化検討研究会」への参加
- 他県学力調査の実施状況の聞き取り（県単位でMEXCBT利用となっている17自治体を対象）
- 全国学調中学理科（IRT）をもとにしたフィードバック方法の分析
- 他県の調査結果等をもとにした「同一問題出題方式」と「IRT」それぞれの利点・課題を整理

※ IRT（項目反応理論）：学力スコアを推定するための統計理論で、それぞれに出題される問題も異なる。

キャリアパスポートのデジタル化の方向性について

現状及び課題

- 市町村立学校の児童生徒においては、R9以降、全ての学校で「県域のアカウント」が利用できるように各市町村教育委員会に依頼している。
- 進学時のデータ引き継ぎ（持ち越し）も、R9以降からの実施予定である。
※各自でデータをエクスポート・インポートすれば、データ引き継ぎ（持ち越し）は可能。
- 市町村によっては、域内で統一されたキャリアパスポート用ファイルや形式などがある。
- 教員用のアカウントは整備済みであるが、Googleツールに不慣れな教員もいる。

デジタル化の方法

各自のGoogle ドライブTM 内にキャリアパスポートのフォルダを作り、
任意のファイル形式で保存する。

- ・R9までをデジタル化の移行期間とし、進学時の紙媒体での引き継ぎを減らしていく。
※各市町村教委に確認の上、可能な学校からデジタル化を推進していく。
- ・紙のキャリアパスポートをデジタル化しても構わない。
- ・児童生徒自身が、より有効にキャリアパスポートを活用できるようにすることを最優先する。

サポート内容

- 「Google ドライブ内にキャリアパスポートを保存する手順書」を作成・配布
- 「Google Classroomのコメント機能を利用する手順書」を作成・配布